

家は単なる器ではなく、人と自然、暮らしと手仕事をつなぐものである

これまで200棟以上の住宅を手掛けてきた大工アーティスト・菱田昌平。その設計哲学、経験、技術を集約し、より多くの人に美しい家を届ける為に生まれた住まいの形、HUIZEN[ハウゼン]。オランダ語で「家々」という意味を持つその名には、常に自然との共生をはかってきたオランダという特異な国に宿る精神性、そして「人と自然にとって、真の家づくりとは何か」というテーマに真摯に向き合う菱田の姿勢が宿っています。

職人集団「菱田工務店」の創る家

菱田の指揮する「菱田工務店」の家づくりには、理想を形にする力があります。大工、設計、営業、現場管理という異なる立場を持つ「職人」が同じ設計哲学の元に集結し、それぞれの経験知見を持ち寄って家づくりに取り組む。そこには、大工の技術と誇り、設計の創造力、営業、現場管理の、住まい手の暮らしを自分事として考える覚悟が宿っています。

チームが一丸となり、敷地の特性を読み解き、環境との調和を考え、住まい手に寄り添いながら、一棟一棟の細部に至るまで丁寧にコーディネートする。手刻みの木があなたの毎日に寄り添うように。手仕事のあたたかさが、あなたの心に届くように。菱田工務店はそうやって、「家々」を創ってきました。

手に届く美しさを、全国の工務店と共に

菱田が長年にわたり洗練してきた、「素材・手仕事・美しさ」という設計作法を基に、居心地の良い空間を「0→10」で創造していく。今迄の菱田工務店では、それが至極当然の事でした。しかしこのプロセスには、設計費や現場管理費、設計期間やコストプランニング期間等、オートクチュール住宅のプロジェクトからは切っても切れない問題点がついて回ります。

HUIZENはあえて「提案型住宅」とすることで、この問題に真っ向から挑んでいます。菱田の哲学から生まれた住宅プランを「基本形」とし、そこから御施主様一人一人に合わせたカスタマイズを提案、展開していく。HUIZENは「9→10」という設計施工のフォーマットを、全国の工務店と全国の御施主様に提示します。時と共に古る美る「いい家」を職人と共に創ってみませんか？

A House That Connects People, Nature, and Craftsmanship

A house is more than just a structure. It connects people to nature and daily life to the art of craftsmanship. Master carpenter and artist Shohei Hishida has built over 200 homes and has developed a new style of housing called HUIZEN. The name "HUIZEN," which means "houses" in Dutch, reflects two inspirations: the Dutch way of living in harmony with nature, and Hishida Komuten's (Hishida Construction Company) lifelong pursuit of what a home truly means—for people and the environment.

Homes Built by the Craftsmen of Hishida Komuten

At Hishida Komuten, master craftsmen, architects, sales staff, and site managers all work together under a shared design philosophy. Led by Shohei Hishida, they bring each client's ideal home to life through skill, experience, and deep care. Each project reflects the pride and precision of carpenters, the creativity of designers, and the dedication of the site managers and sales. They carefully study each site, consider the surrounding environment, and design every home to fit each client.

Bringing Beauty Within Reach With Local Builders Nationwide

For years, Hishida has developed a design approach that focuses on materials, craftsmanship, and beauty. Every project was bespoke, the creation always started from point 0. Such a process, despite its many benefits, often requires extra time and money. HUIZEN solves this issue by offering a variety of ready-made house plans that were developed based on Hishida's past projects and design philosophy. Clients can then "adjust" them to suit their needs efficiently and affordably. HUIZEN provides a simplified house-building process not only to clients but also to carpenters around Japan. HUIZEN carries a strength to change the housing landscape of this country. Would you like to join us in creating homes that grow more beautiful with time?

HUIZEN HISHIDA

HISHIDAの設計哲学を受け継ぐ
新たな家づくりフォーマット

A new home-building format that inherits HISHIDA's design philosophy.

古
る
美
る
手
仕
事



ABOUT HISHIDA

HISHIDAの哲学

素材・手仕事・美しさ 当たり前、その先へ

「人の想いに常に寄り添い、職人の手仕事によって、自然と調和した美しい家を創っていく」

菱田昌平の信念は、菱田工務店、そしてHUIZENのつくり手に連綿と受け継がれています。

つくり手にとって、いいものをつくるのは当たり前。

家創りに関わる者全てに気を配り、地球の素材を見極め、世界に散らばる伝統の技を磨く事で、その当たり前を、どこまで深め、極めていけるか。

無邪気で真摯な探求心。菱田昌平、そして彼が生み出すHUIZENの中には、いつもこの心が息づいています。

HISHIDA's Philosophy
Materials, Craftsmanship, and Beauty — Pursuing
Excellence Beyond the Ordinary

"We create beautiful homes in harmony with nature, always attentive to the emotions of those who dwell within them, through the craftsmanship of skilled artisans."

This guiding principle of Shohei Hishida has been faithfully carried forward by Hishida Construction and the team behind HUIZEN.

For these creators, achieving high quality is not an aspiration but a baseline.

With deep respect for all involved in the homebuilding process, they carefully select materials sourced from the earth and continuously refine traditional techniques drawn from cultures around the world—elevating what is expected into something truly exceptional.

Rooted in a spirit of sincerity and quiet curiosity, this enduring philosophy continues to inspire Shohei Hishida and the homes crafted under the HUIZEN name.

設計作法1
美しい家を創るために

人は本能的に美しいものに惹かれます。建築においても例外ではありません。

流行に左右されず、時を経ても色褪せないデザイン。単なる機能を超え、心まで豊かになれる美しい家を提供すること。それが菱田昌平の目指す家づくりです。

美しさとは、一朝一夕で生まれるものではなく、長い思考と経験の先にある、無数の小さな決定が積み重ねられて出来るものです。おいしい野菜を育てるには、土作りから適切な水やり、太陽の光、気候に合わせた管理が必要のように。おいしい料理を作るには、素材の選定、調理法の工夫、味のバランスを見極める技術が求められるように。家づくりも同じです。ただ形にすればいいのではなく、敷地と素材を選び抜き、形態、間、機能を考え抜き、住ま

う人の「いごこち」を突き詰めていきます。美しさとは「暮らしの質」そのものです。菱田昌平の家づくりには、美しい暮らしを実現するためのノウハウが息づいています。

設計作法2

大工という生き方

人への想いが空間をつくる

「大工さんってのは、すげえよな」。長年、菱田工務店の現場を支えてきた現場監督がふと漏らしたこの言葉には、大工の仕事の本質が詰まっています。大工とは本来、ただ家を建てる技術者ではなく、家に住む人々の暮らしを思いやり、家の隅々に至るまで、「いごこち」を追求していく職人です。

家とは、人が生まれ、成長し、歳を重ね、最期の時を迎える場所。さまざまな瞬間が生まれ、消えていく場所。

あたたかく、はかなく、美しい場所。

子供が生まれる時、育つ時、巣立つ時。せわしない時間、ゆるやかな時間、老いと共に歩む時間。施主様がいつか歩くのも億劫になるそんな時。この家のこの場所に腰掛けてもえれば、ここから見える紅葉はきっと美しいだろう。菱田昌平は、ずっとそんな事を考えています。土地を視る時も、図面を描く時も、木を刻む時も、家に住む人々の幸せを想っています。

ではなぜ、一人の大工がそんな力を持つに至ったのか。

大工の修業は、見えない所で既に始まっています。お茶汲みや現場掃除から始まる修業は、ただの下積みではありません。 「気配り」なくして「木配り」なし。「優れた設計や施工は、人への気配り無しには成り立たない」、という本質を学ぶ為の大切な時間なのです。たとえば御手洗いのカウンター一つとっても、菱田昌平





は丁寧に思考します。それを使う人の動き、視線の流れ、触れる手のひらとそこへ伝わる感触。全てに気を配り、細部に命を込める。この姿勢が、家全体の質を高めていくのです。

設計作法 3

挽き算の建築

く自然な佇まいく

「自然」であること。菱田昌平の設計作法の一つです。

日本料理の根幹にある「挽き算」の美学にも通ずるこの考えが、素材の良さを最大限に引き出す建築を生み出します。木の見せ方を知り尽くしている大工だからこそ、空間を構成する幾つもの要素を一つ一つ洗練していく事で、残る一本一本の木から混じりけのない美しさを「挽く」事ができるのです。

たとえば、木を「はつる」ことで浮かび上がるのは、木が生来持つ個性です。製材された木をコーティングして

いる人工的な均一さではなく、自然そのものをもつ素朴な表情が空間に命を与えてくれます。

「人の存在を感じる」
「何かがいるんだよね」

菱田工務店の家を見た御施主様が、こんな風に呟かれる事があります。きっとそれは、真実を捉えている。私達はそう思います。

設計作法 4

いこちのデザイン

く間がつくる心地よさく

「不登校は間取りで解決できる」
菱田昌平は本気でそう考えています。それ程、「間取り」というものは人の成り立ちに影響を与えるものだと言えます。

「間」とは、人と人との物理的、あるいは心理的な距離感のこと。間が変われば、その場所の居心地が変わ

る。居心地が変われば、そこで起こるコミュニケーションの内容までもが変わってきます。人間という存在は、単独で成り立つのではなく、人と人との「間」に生まれるものだから。一棟の家の中にどのような「間」を設計するか。それは居心地を決める重要なファクターなのです。

菱田昌平の設計には基準となる「間」が2種類存在します。

日本の間の真髄ともいえる「四畳半」。そして、彼がベルギーの大工仲間の家を訪れた時に体験した暖炉のあるリビングの寸法である「3 m × 3 m」。その広さはまさにヨーロッパ版、四畳半（4ベッド半）といえるもの。文化は違っても、人が心地よく過ごせる「間」には、共通する寸法があるのです。

空間を「広さ」や「高さ」といった数学的尺度で捉えるのではなく、「居心地」という精神的尺度で捉えた時、ただ広いだけの「間延び」した部屋に、ぼつんと一人で佇むことの寂しさが見えてくるのではないのでしょうか？



「間」と「人間」、双方の奥深さを知る
菱田昌平の設計を、是非体感してください。

設計作法
火と洞窟
～ 遺伝子の棲家 ～

縄文の時代。人は洞窟や竪穴式住居で暮らし、火を囲みながら時間を共にしていました。暗闇の中に立ち上がるその温もりと安心感は、現代を生きる私たちのDNAにも確かに刻まれているものです。

菱田昌平が大切にする「火の間」と「纏天井」は、そうした原初の心地良さを現代の住まいの一角に取り入れる為の設計手法です。

「火の間」とは、土や漆喰等の「光を呼吸する」左官材で設えられた、暖炉・薪ストーブのある空間の事。家の中に火のある場所が存在することで、人は自然とそこに集まり、

対話が生まれ、豊かな時間が流れる。火の間はただの暖房装置ではなく、人と人をつなぐ場として機能します。

「纏天井」とは、菱田昌平が自身の経験と実測から辿り着いた、「2200mm」の天井高の事。天井は高すぎると落ち着かず、低すぎると圧迫感を感じる。しかし、2200mmという絶妙な寸法は、空間を創っている素材や職人の手仕事の跡を住まいのもとへ引き寄せ、まるで自然の命を纏っているかのような安心感を生み出します。

揺らめく炎の傍に人が集い、素朴であたたかな天蓋に守られ、大切な人と、大切な時間を過ごす。そこには、太古より変わらぬ「居心地の原型」があります。菱田昌平の創る空間は、単なる形態的デザインではなく、人の本能が求める心地よさを丁寧に掘い上げ、形にしています。

HUIZEN
HISHIDA

MODEL HOUSE | 予約制

長野県埴科郡坂城町南条5937-1

アクセスマップはこちら >



株式会社 菱田工務店 長野県埴科郡坂城町中之条1683-17

TEL.0268-82-8876 <https://hishidak.com>

HISHIDA
Official HP



HISHIDA
Instagram

